

令和4年11月25日

開成町議会議長 吉田 敏郎 様

開成町議会議員 前田 せつよ
(代表)

派遣成果報告書

派遣の区分	<input type="checkbox"/> 委員会派遣（_____委員会） <input checked="" type="checkbox"/> 議員（複数） <input type="checkbox"/> 議員（単独）
目的 (調査事項又は研修項目)	令和4年度議員県外行政視察 ながの環境エネルギーセンター（長野広域連合） 「環境エネルギーセンターの設置から現在の運営について」 まちとしょテラソ（長野県小布施町） 「まちとしょテラソの設置から現在の運営状況について」
目的地	① ながの環境エネルギーセンター 住所：長野県長野市松岡二丁目27番1号 ② まちとしょテラソ 住所：長野県上高井郡小布施町小布施1491-2
期日（期間）	令和4年10月26日（～令和4年10月27日）
視察又は研修の成果	別紙のとおり

神奈川県開成町議会視察研修会出席者名簿

役 職	議員名	所属政党	備考
議 長	吉田 敏郎	無所属	
副 議 長	湯川 洋治	無所属	
議 員	下山千津子	無所属	
議 員	佐々木 昇	無所属	
議 員	武井 正広	無所属	
議 員	前田せつよ	公明党	代表
議 員	星野 洋一	無所属	
議 員	井上 三史	無所属	
議 員	山本 研一	無所属	
議 員	石田 史行	無所属	
議 員	井上 慎司	無所属	

随 行

議会事務局長	遠藤 直紀
--------	-------

県外視察成果報告書

代表幹事 前田 せつよ

行政視察の第一日目は総務経済常任委員会所管に関わる「ごみ処理施設の運営」、第二日目は教育民生常任委員会所管の「図書館の取組み」を主題としたものでした。

一日目のごみ処理施設である「ながの環境エネルギーセンター」は、資源循環型社会を形にした総合型施設で、ごみ処理により作られる熱エネルギーは高効率であり、様々に運用が図られていました。見学直後には、ごみ処理施設が市街地に建てられている違和感は瞬く間に拭い去ることができ、施設見学による環境学習や温泉を楽しむ施設等、地域に喜ばれる存在であることが具現化されていました。

二日目の「小布施町立図書館まちとしょテラス」は、町民と共に作り上げた図書館であり、その自由度と発想は今なお進化を続けていると実感しました。その裏付けは、書物(本)に対する想いによって様々な仕掛けが施されていることでした。館長の説明が重ねられていくうちに、大きな視点も細やかな視点もハード、ソフト面を含め縦横無尽に取り入れられていることに脱帽でした。最大の要因は、館長が一般公募で決められており、任期は3年間(延長はプラス2年間)であることと思います。どこを切り取っても先進的な事例があり、歴代の館長に思いをはせて視察をさせていただきました。

この度の県外行政視察も大変に有意義なものでしたが、本町に今後どのように反映させていくのか、各人の課題であり議会としても真摯な取り組みのために力となるものでした。

派遣成果報告

ながの環境エネルギーセンター 令和4年10月26日(水)

「環境エネルギーセンター」の設置から現在の運営について

2019年3月に施工した、「ながの環境エネルギーセンター」は、長野地域千曲市及び坂城町を除く6市町村の可燃ごみのごみ処理広域化を目指し建設された焼却施設である。

この施設はごみ焼却処理だけでなく、発生した熱による高効率発電や隣接するサンマリーながの(総合レクリエーション施設)への熱供給、焼却炉運転時の余剰電力を市立の小中学校および高校の計80校に供給するモデル事業の取り組み、また焼却灰の資源化などの有効利用、工場棟の見学による学べる環境学習設備を通して、環境保全や資源循環型社会の推進を目的とした施設である。

施設建設にあたっては、施設の安全性や周辺環境への影響等の説明会を丁寧に回数を重ねることにより理解を得ているとのことであり、しっかりとした住民との意見交換の必要性を感じた。また周辺環境との調和を考え住宅地と面した北側に大規模緑地「つながりの丘」という高い堤を造り、住宅地から施設が見えにくいような配慮もされ、地域への貢献として災害時の一時避難所機能も有して住民の理解を得る努力を感じた。

この施設で焼却により発生する灰・スラグ等70%は資源化され、生成される溶融スラグの50%以上は地元の製造企業によってコンクリート二次製品等の骨材として地域での有効利用が図られ資源循環の促進がなされているのは大変重要だと感じた。

開成町では可燃ごみ処理は山北町と共同で足柄西部環境センターにおいて平成7年よりごみ処理を行っているが、施設の老朽化が進んでいる。

現在神奈川県は地域をブロック化し、県西部においては南足柄・足柄上ブロックで検討中である。広域化の観点から、ながの環境エネルギーセンター視察は、大変有意義だった。

開成町議会議員 星野 洋一

派遣成果報告

長野県小布施町 令和4年 10 月 27 日(木)

「まちとしょテラソ」の設置から現在の運営について

1 小布施町に新しい図書館「まちとしょテラソ」はどう誕生したのか。

昭和 54 年役場庁舎新設時、庁舎の 3 階に図書館が置かれた。庁舎内という合理性はあったが、手狭でエレベーターもなく高齢者や子ども連れに不便だった。更に小布施町は長野県下で電算化が一番遅れていた。そこで、平成 18 年、公募型プロポーザルの手法で設計者は 166 者の応募者から、館長には 25 人の応募者の中から選び、平成 21 年 7 月竣工・開館を迎えた。

2 図書館としての理念がすばらしかった。

まちとしょテラソは、「学びの場」「子育ての場」「交流の場」「情報発信の場」という 4 つの柱による「交流と創造を楽しむ、文化の拠点」という理念のもとで建築された。皆さまに親しまれる集いの場になるように、これまで親しまれた町の図書館であることと、待ち合わせの場という意味を込めた「まちとしょ」そして、「世の中を照らし出す場」「小布施から世界を照らそう」などの考えを加えて「まちとしょテラソ」という愛称がついた。

3 まちじゅう図書館という考えでまちづくりをしていた。

まちじゅう図書館は、お店や一般のお宅のちょっとしたスペースに、仕事に関係する本やオーナーの趣味の本などを置き、訪れる人と本を介して交流を図ろうとする目的で考案された。参加する店舗や住宅を図書館と考え、その主を館長と呼んでいる。平成 24 年に 10 の参加館で始まり、登録が 100 館になったら小布施町を「本のまち」として宣言することを目指している。

まちじゅう図書館の開始に合わせてキャラクター「オブセドリ」が考案され、参加館には「オブセドリ」が描かれたフラッグが目印として掲げられている。

下山 千津子 議員

所感等

ながの環境エネルギーセンターは、ごみを焼却するだけでなくそこから発生した熱を高効率の発電装置によって隣接する「サンマリーンながの」へ供給や焼却灰の再資源化などを行っている施設で、大変有意義な視察となった。

特にセンター内には、環境学習コーナーが設けられており環境保全や循環型社会の推進に理解を深める施設として見学者からの好評な様子が感じられた。視察者の一委員が「建設計画を進めるにあたり住民の理解は得られたか」の質問に対しての答えからは住民の理解を得られるように誠実で丁寧な説明を行った行政の努力が実った結果であると思った。

また、当施設には見学した小学生の感想文が、通路の数か所に展示しており、それらの文章から小学生の時に当センターの仕組みを学んだ子どもたちにとっては、自分が出すごみが工場の設備によって新たな価値(熱、電力)を作り再利用される事を学ぶこととなり住んでいる地球を大切にすだろうと感じた。

特に将来の地域社会を担う子どもたちの環境教育には大きく貢献する施設であることを私は強く感じた。

佐々木 昇 議員

所感等

今回視察した「ながの環境エネルギーセンター」は『未来に向けて突き進む サステイナブル Eco Ship ～エネルギーと資源が循環する施設を目指して～』をコンセプトに、1. 安心・安全な施設と運営、2. 環境への配慮および貢献、3. 周辺環境との調和と環境教育への寄与、4. 事業の安定性、5. 地域への貢献の5つのテーマを重視し、環境の情報発信の場として、地域住民に信頼される施設を目指しているということである。

その中で特に興味深かったのは、2. 環境への配慮および貢献、3. 周辺環境との調和と環境教育への寄与についてである。

「環境への配慮および貢献」への主な取組みとして、ごみを焼却処理するだけでなく、発生した熱による高効率発電や隣接する「サンマリーンながの」(プール、温浴施設、トレーニングルームなどを備えたレジャー型のレクリエーション施設)への熱供給、また焼却灰の資源化など積極的な資源の有効利用に取り組んでおり、中でも焼却灰などの有効利用率が70%以上ということ、これは最終処分場の課題を持つ国にとっても効果がある取組みである。

「周辺環境との調和と環境教育への寄与」では、住宅地と面した施設北側には「サンマリーンながの」につながる大規模緑地「つながりの丘」を整備し、これは、住宅地から施設がほぼ見えないようにも整備されているということであった。施設の関係では環境学習機能を持った管理棟と工場棟となっており、基本的にはいつでも出入りができるということである。管理棟ではゲーム感覚で学べるコーナーなど楽しく学べる工夫がされていた。また、工場棟ではごみ処理施設についてわかりやすい表示板が設置されている中で見学ができるなど、何度でも足を運びたいような施設になっている。

本町では現在、ごみ処理施設の老朽化に伴い、足柄上地区の1市5町で「あしがら上地区資源循環型処理施設整備調整会議」を設置し、今後の足柄上地区のごみ処理広域化を推進する取組みを進めている。

新たにごみ処理施設を設置する際には、地域の人に親しまれ、環境に優しく、安心・安全な施設になるよう求めていきたい。

武井 正広 議員

所感等

小布施町の図書館「まちとしょテラソ」は、「死ぬまでに行ってみたい世界の図書館15」(トリップアドバイザー)などにも選出され注目されている図書館である。

設置にあたっては、7年という多くの時間をかけ住民と行政で創り上げた。住民のまちづくりへの参画意識は高くその効果もあり町人口 10,985 人の4割が図書館を利用登録しているという町民にとっても愛されている図書館になっている。

この施設は、「学びの場」「子育ての場」「交流の場」「情報発信の場」という4つの柱による「交流と創造を楽しむ、文化の拠点」という理念のもとで建築され、理想としたのは図書館から町や文化をつくることと、図書館が町の元気の源であること。

最も驚くことは、館長が公募制である。全国から様々なキャリアを持った方々が応募され、館長の任期は3年、延長しても最大で5年。設立当初から常に新しい風を吹かすとのコンセプトで運営されている。

4代目の現館長は千葉県浦安市からの移住者で20代の女性で、前職は戦略コンサルタントとのことだ。

町からかなりの権限が委譲されており、教育委員会からコントロールされず自由な図書館運営ができているようだ。館長の話を知っているだけでこの図書館の魅力が感じられた。きめ細かい様々な工夫がなされ常に進化もし続けている。

本町の現状は、町民センター3階の小さなスペースの図書室しかない。このような登録利用者が町民の4割もあるような愛される場所、交流と創造を楽しむ文化の拠点が今後本町にも望まれる。とても有意義な視察であった。

山本 研一議員

所感等

10月26日・27日、開成町議会で長野県に県外行政視察に行きました。

視察先は、長野広域連合の「ながの環境エネルギーセンター」と小布施町の町立図書館「まちとしょテラソ」でした。

「ながの環境エネルギーセンター」は、6市町村約19万世帯から排出されるごみを処理する焼却施設で、船をイメージしたというきれいな建物で、匂い、騒音、振動などが無く、高さ80メートルの煙突から出る煙は水蒸気だけというごみ処理場とは思えない、環境に配慮した運営がされている。

一日平均約360台という搬入車で、地域の交通量増加とそれに伴う排気ガスの弊害を除けば、市街地にあっても全く違和感のない施設であり、地域住民の理解を得られるのが難しいと考えられる施設の建設に関して大変参考になりました。

「まちとしょテラソ」は、「交流と創造を楽しむ、文化の拠点」を運営の理念として平成21年に開館され、設計者や館長は全国からの公募により、選ばれたとのことでした。

建物の素晴らしさはもちろんですが、公募で選ばれた館長による工夫が、随所に生かされた運用にも感心しました。

それぞれ素晴らしい施設を視察することができ、大変良い勉強になりました。今後の議員活動の糧にしたいと思います。

石田 史行議員

所感等

ながの環境エネルギーセンターのごみ処理については、可燃ごみだけであり、資源ごみや不燃ごみは各市町が個別に処理しているということで、広域でのごみ処理の難しさを感じた。子ども向けの啓発ブースは確かに面白かったが、お金を掛けて設置する意義はあまり感じない。新しいごみ処理場を作ったということで、環境に優しい独自の取組みを期待していたが正直期待外れであった。

一方、小布施町の図書館については、非常に有意義な視察となった。館長のプレゼン能力の高さに舌をまいた。図書館の内装やデザインのコンセプトは斬新で、館長を公募して選び、権限と財源について教育長から一切を任されていることに衝撃を受けた。我が町も今後図書館を建設するとしても、ただ建設するのではなく、斬新な図書館にするべくもっと調査研究をしたうえで、独自の取組みをすべきと痛感した。

井上 慎司 議員

開成町議会 県外行政視察、初日は長野県長野市の「ながの環境エネルギーセンター」を訪問しました。

こちらの施設は長野市を中心とした近隣6市町村の可燃ごみを処理する施設として建設され、3年前から稼働が始まった最新式の様々な設備を備えた施設で、この環境エネルギーセンターの隣には大きな温水プールを備えた『サンマリンながの』という施設があり、この温水プールにもごみ焼却の余熱が利用されているとのことでした。

ごみを焼却するときに発生する熱エネルギーを利用しての発電では、24時間稼働することで12,600世帯分の電力を発電できるそうです。契約先に売電して、さらに余剰電力は小中学校80校で使われているそうです。さらに焼却灰は高温で溶かして建設資源などとして再利用されるそうです。

現在、南足柄市と足柄上郡の1市5町でごみ処理広域化が検討されています。今回視察した施設はカバーする人工規模こそ違うものの、参考になることが大変多く、同県内には今年9月に供用を開始したばかりの千曲環境エネルギーセンターもあり、カバーしている人口の規模はこちらの施設のほうが足柄地域に近いので機会があればこちらの施設にも見学へ伺いたいと思いました。

2日目の視察は長野県小布施町の図書館『まちとしょテラソ』を訪問しました。

小布施町は人口1,100人弱ですが、図書館とそれを取り巻く町の環境は日本屈指のものだと感じました。

小布施町の旧図書室は町役場の3階にありスペースも小さく使い勝手が悪かったそうで、これは開成町にも通じます。そんな小さな図書室を住民と行政との協働で素晴らしい施設へと生まれ変わらせました。

まちとしょテラソでは、学びの場・子育ての場・交流の場・情報発信の場という4つの柱を理念として図書館から文化を発信し、人と人との繋がりを活かせる空間になっていました。また、様々な理由で学校生活に馴染めない子の居場所としても機能しているとのことでした。

一番興味深かったことは、開館当初から館長が公募制ということです。現在の館長は4代目で、千葉県から移住された若い女性のかたでした。任期は最大で5年までとのことですが再任はなく、これは常に新しい人材で施設の運営をアップデートし続けるためだそうです。

館長には図書館に関わることはほぼ全て権限委譲されていて自由な発想で図書館運営ができています。拝見したなかでも、大人から子どもまで図書館に足を運びたいような企画が様々に取り組まれていました。

現在の開成町の図書室は町民センター3階の一部のスペースのみです。新しい箱物を造ることは時代には逆行しますが、既存の施設を活かしたり複合型の施設にすることで図書室の質も機能も大きく生まれ変わらせることは可能であることを実感しました。

湯川 洋治 議員

本町と人口や面積が類似している長野県小布施町に視察研修をしました。研修の中心については、町立図書館まちとしょテラスの設置から現在の運営及び取り組みについてでした。まず驚いたのが、設計者と館長を公募で、設計者は公募型プロポーザルを行い166者の応募があったことと館長は25名の応募があったとのことでした。多くの図書館人事は、役場職員のOBが館長となるのが慣例化している中、素晴らしい発想と思う。俗にいう縦型社会とは全く関係なく教育委員会からの指導等もなく館長にすべてを任せていることでした。

新図書館建設については、平成18年に「第四次小布施町総合計画」で重点施策として「図書館の整備・充実と情報サロンとしての活用」が示され図書館のあり方検討会が発足し、その後各自治会やコミュニティごとの町政懇談会において意見提言を受け、平成19年職員プロジェクトチームが発足し、基本構想案が策定された。図書館は「学びの場」「子育ての場」「交流の場」「情報発信の場」を四つの柱とし、「交流と創造を楽しむ、文化の拠点」を運営の理念として建設に向けて動き出した。

開成町も教育の町として図書室でなく近い将来図書館の建設が必要であると切に感じた。